

会員活動紹介@会員のひろば_原稿執筆手引き

「会員のひろば」を活用して、会員の活動紹介を行い、会員同士の交流に役立てる記事の執筆をお願いします。(投稿料はいただきません)

原稿作成要領

1. 刷り上がり半ページ(下の例を参照ください)で、各号に2つの記事が掲載されます。
2. 半ページでは詳しい紹介ができないので、ホームページの URL、QR 等の記載を歓迎します。大いに PR してください。
3. 写真を歓迎します。研究室のスナップ、調査中の写真、施設の写真など。
4. 表題は、下記のように研究室(所)名、団体名などとしてください。**本文文字数は写真を入れる場合、730字程度におさめてください。**
5. 次の執筆者を探していただき、本文の最後に「次は、〇〇研究室です」などと入れてください。次々となつないでゆく駅伝方式あるいは“笑っていいとも”方式です。
6. 入稿の際は、投稿システム(学会 HP の投稿・入稿ログインボタン)からお願いします。なお、送り状の作成も忘れずをお願いします。

ご協力に感謝申し上げます。
会誌編集委員会

会員のひろば

会員の活動紹介

沖縄土壤医の会

2014年に全国初の地域土壤医の会として「沖縄土壤医の会」は日本土壤協会に設立認可されました。現在、会員数は43名、日本土壤肥料学会員である宮丸直子、儀間靖、吉田晃一が会長、副会長を務め、土壤に関する活動を幅広く行っています。

「沖縄土壤医の会」の設立以前には「沖縄土壤環境研究会」という有志の勉強会があり、農業分野と環境分野の所属を超えた会員が集って、土壤断面調査やそれぞれの専門に関するセミナーを行ってきました。これらの活動によって、他分野との交流の楽しさ、大切さを改めて実感しました。「沖縄土壤医の会」はその流れを引き継ぎ、土壤研究者ばかりでなく、農機メーカー、農業共済組合、環境分析機関、農業土木コンサル、NPO法人、普及関係機関などに所属する多様なメンバーが集まり、互いに研鑽を深めています。

会の活動の中で、重視しているのは土壤断面調査です。沖縄の土壤は下層土に生育阻害要因があることが多いため、土壤断面調査ができる人材の育成は重要な課題です。また、実際に現場で土壤を観察することは、本で学ぶこととは全く違った楽しさがあり、土壤断面調査は会員に一番人気がある活動です。調査後は、土壤化学性データも合わせて「土壤診断」をフリーディスカッションで行います。一つの土壤断面でも多様な見方があり、議論は白熱します。

滋賀県立大学 環境科学部 生物資源管理学科 土壤学研究室

滋賀県立大学は琵琶湖のほとり(滋賀県彦根市)にキャンパスを擁する自然豊かな公立大学です。最寄駅のJR南彦根駅から大学まではバスで約15分ほどかかります。環境科学部は日本で最初に「環境」という名のついた学部(と言われています)で、私が所属する生物資源管理学科は動植物の生産から土壤・水資源の保全と活用など農林水産業に関わる幅広い分野を網羅した総合学科です。現在、本学に所属する教職員のなかで本学会会員は私のみということから、周辺の方々に勧誘しているところです。ここでは会員である私が運営する土壤学研究室を簡単に紹介させていただきます。

今年度(平成29年度)の土壤学研究室は私と学部4年生が3人の計4人体制です。残念ながら大学院生はいません。現在は土壤有機物を主な研究対象として以下のような課題に取り組んでいます。(1)プライミング効果に着目した土壤有機物動態に関する研究。(2)黒ボク土における褪色メカニズムの解明。(3)農地における炭化物の活用



ある活動です。調査後は、土壤化学性データも合わせて「土壤診断」をフリーディスカッションで行います。一つの土壤断面でも多様な見方があり、議論は白熱します。

会員相互の自己研鑽ばかりでなく、土壤に関する情報発信も重要だと考えています。2015年には、国際土壤年記念シンポジウム「地球は土の惑星」を沖縄市で開催しました。今後は「国際土壤の10年」を意識した活動を行っていきます。

最後になりましたが、沖縄土壤医の会の目的は「沖縄農業に貢献すること」です。常に目的を忘れずに、楽しく活動していきたいと思っております。

(宮丸直子)



関する研究。(4)マングローブ土壌と炭素循環に関する研究など。運営してまだ5年目の比較的新しい研究室ですが、土壤学に貢献し得る新規の重要な知見を見出すこと、また、地域農業に貢献し得る成果を上げることを目標に活動しています。お近くにお越しの際はぜひお声がけください。また、上記のような研究に少しでも興味のある大学院生を大歓迎しますので、お気軽にお問い合わせください。

(飯村康夫)